

## 6・4 開発LT短縮

開発リードタイムに対する市場要望は益々厳しくなっています。それに対し、様々なITツールを活用して、期間短縮化の活動を推進されていますが、なかなか難しいのが現実です。その理由は、技術の新規性、困難性の増大に伴う開発者の負荷の増大と、設計者の不足、スキル低下等のリソース不足があり、ツールを入れるのみでは対応できなくなっているのが現実です。無理に短期間で開発しようとする、思わぬ品質トラブルが発生してしまうという問題が出てきています。

このように開発リードタイムを力づくで短縮しようとしても、もぐらたたき状態となります。そこでは根本的な対策をする必要があります。体系的に対策を考えることでしか実現しません。図のような体系的な問題対策を行い、設計の実力を付け、管理力を強化することが必要です。

活動においては、このような体系的視点をもち、どこで問題が発生しているかを明確化し、その根本対策を優先度を付けて着実にを行うことが重要です。さらに近年開発リードタイムの対策領域が、オペレーションの問題からマネジメントの問題へと移りつつあります。特に日本企業の場合、マネジメントの問題が議論されずに、「金とITを出すから何とかせい！」的なトップが多いのも事実です。双方の検討をすべきでしょう。

### 展開ステップ

